

# 大 垣 商 工 会 議 所

機関名	大垣商工会議所		
所在地	岐阜県大垣市旭町6-3		
電話番号	0584-78-9111		
地域概要	(1)管内人口 14万8千人	(2)管内商店街数 8	商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 7	(2)会員数 312	商店
	(3)空店舗率 14.7%	(4)大型店空き店舗数 0	店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成12年度 商店街活性化対策事業 チャレンジショップ、イベント  
 総事業費 17,651千円

【事業実施内容】

1. 背景

岐阜県の西方、西濃地域に位置する大垣市は、豊富な地下水に恵まれ繊維、窯業土石、化学などの揚水型産業が発達し、JR大垣駅を中心として、商業・交通・賑わい・交流・雇用など、さまざまな面で西濃地域の拠点としてその役割を担ってきた地域である。

しかし、近年大垣市中心市街地もモータリゼーションの進展による購買範囲の広域化、郊外への大型店の出店、道路整備によるロードサイド店の増加、中心市街地の定住人口の減少などの外部的要因、そして店主の高齢化、後継者難、営業意欲の低下、高地価等による新規事業者の参入難等の内部要因が加わり購買客の流出を生み、売上を停滞させている。このことはまた、中心市街地に空き店舗を生み出し、商店密度を下げることから商店街としての一体感を失わせることとなり、更なる購買客離れを引き起こしている。



## 大垣商工会議所

大垣商工会議所は、毎年中心市街地を対象に空き店舗調査を実施しているが、年々増加している空き店舗数は、平成 14 年の調査では 51 の空き店舗数にのぼり、これは全体の 14.7% に相当する割合であった。

上記の要因で空き店舗が発生するだけでなく、さらなる問題は「発生した空き店舗に新規テナントが入店しない」ことにある。その原因として賃貸意志の無い商店が多いことや賃貸料が高いことをあげられる。たとえ賃貸の意志があっても賃貸料がテナント側の希望と大きく隔たるケースがあり、新規テナントが入居出来ない状況であった。

こうした背景をうけ、中心市街地の空洞化を改善し、集客力を強化し、その活力低下に歯止めをかけるため大垣商工会議所では空き店舗対策モデル事業の一環として「チャレンジショップ事業」、関ヶ原合戦 400 年を記念して大垣市で行われた“決戦関ヶ原大垣博”に併せて「東西・と～ざいフェスティバル」を開催した。

これらの事業の目標は、中心商店街が結束して自らの力（資金と人材）を基に大垣市民と外部の人材を活かして、商店街への集客力を周年的に維持・発展させていけるイベントの企画とその実施に取り組んでいくことである。

## 2. 事業内容

### (1) 「チャレンジショップ事業」

空き店舗の家主と出店・入居希望者を仲介する形で中心市街地の賃貸可能な空き店舗 19 店舗を対象として出店者には家賃月額 8 万円を上限に賃料の 50% を補助し、また改装費は 1 回限りで 60 万円を上限に費用の 50% の補助を受ける制度を活用した。募集方法として各報道機関、大垣市が発行している「広報おおがき」や大垣商工会議所が発行している「商工ニュース」などにより広く募集をした。

募集の結果、6 名の希望者があり、審査の結果、4 店舗出店した。

店舗名	営業内容	販売品目
(株)福祉の里	介護用品、介護用具	ベッド、ポータブルトイレ、風呂等
早八	居酒屋	飲食
たいりく	飲食	飲食（エスニック中心）
恵比寿藁屋	居酒屋	飲食



審査の結果、4 店舗が出店

(2)「東西・と～ざいフェスティバル」

中心商店街の活性化及び集客力の増加を図るため、大垣市中心部で開催されていた決戦関ヶ原大垣博と併せて開催された。大垣市は、地理的、文化的、歴史的にも東西の接点の地域であるため、「歴史との出会い、東西の出会い」をテーマに大垣市中心市街地を歩行者天国にして約110のテントを設置し、各商店街商振興組合、大垣商工会議所の各部会や西濃地域市町村及び商工会等が出店して地元特産品の販売やワゴンセールなどを行った。

また、「東西」をキーワードに著名な料理人による東西料理対決、東西味比べ、東西芸能対決といったイベントを行った。

- ・開催日：平成12年10月7日(土)  
8日(日)
- ・場所：大垣駅前、郭町通り、新大橋周辺、大垣市各商店街
- ・主催：東西・と～ざいフェスティバル実行委員会
- ・テーマ：「歴史との出会い 東西の出会い」
- ・バザール：北伊勢・西美濃市町村・商工会、商工会議所部会、婦人会、商店街等各種団体によるバザール
- ・出店団体：桑名市、多度町、大垣市、垂井町、関ヶ原町、神戸町、安八町、輪之内町、海津町、南濃町、平田町、養老町、上石津町、揖斐川町、大野町、池田町、谷汲村、春日村、久瀬村、藤橋村、巢南町、根尾村



「東西・と～ざいフェスティバル」の様子



【 効 果 】

1.「チャレンジショップ事業」

中心市街地の空き店舗の増加に歯止めをかけるだけでなく、商店街の賑わいを創出し、勤め帰りのサラリーマンなどにも気軽に利用された。

2.「東西・と～ざいフェスティバル」

イベントに集まった多くの市民が、飲食を中心に周辺の商店街へ流れるケースも多く見ら

れ、商店街活性化に対して一定の経済効果が生まれた。短期間で大きな集客力を発揮した点では十分な効果があった。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 「チャレンジショップ事業」

店舗を開業して1年間は、店舗改装費の一部負担や家賃を半額補助等で資金的に支援することができるが、2年目からは、補助することが出来なくなるため、なかなか経営維持が難しい。新規テナントを誘致する際には家賃を大幅に引き下げるなど家主側の理解と協力が不可欠である。既に、中心市街地の地価は、大幅に下落している。

初期投資をできる限り抑え経営の早期安定を図る新規出店者にとっては、商業地区の地価下落に対応した現実的な家賃の設定が重要である。

応募した店舗経営者中には、これまで経験を積んで実績を持っている者もいれば、店舗経営は、初めての者もいる。従って、経営を軌道に乗せるために経営コンサルタントなどアドバイザーが必要である。

2. 「東西・と～ざいフェスティバル」

イベントは、一時的に効果があがるが、効果を活かして中心市街地の商店街へ来街者を回遊させる方法を新たに考えていく必要がある。

【 教 訓 】

事業終了後も関係店舗や機関との情報交換及びコミュニケーションは、とっておくことが大切である。

また、空き店舗の賃貸を希望しない家主などに、いかに合意形成を図るかが重要である。これらのコンセンサスが得られなければ、商店街はさらに統一性を失い内部からも瓦解していく。

【 関 連 U R L 】

大垣商工会議所

<http://www.ogakicci.or.jp>

大垣地域産業情報研究協議会

<http://www.ginet.or.jp/sanken/>